

ごんぼほりの会

第三回企画

「考古学は、今を映し、未来を照らす」

第三回企画は、考古学を発掘しながら、悪たれずに理のかけらをほじくり出し、過去に理を学び、今を顧みて未来に理想を拓^{ひらく}。

理想とは、理があって想うもの

「現象を気と言ひ、現象の根底の本性を“理”、とも言う」

おはなし 佐古 和枝 考古学者

お客 李^い 政美^{じょんみ} 歌手

日・時 2019年3月24日（日曜日） 午後2時～4時

ところ 山の食堂「ポルセリーノ」南三陸町志津川字大沢216

問い合わせ 電話 0226・46・5592 ごんぼほりの会 杉田 徹

チケット…1000円

美味しい打上…1000円（メツゲライクスダ作、いぼり仔豚

の骨付きハム、1本）飲み物持参

佐古和枝プロフィール



- 出身 鳥取県米子市
- 学歴 同志社大学文学部文化学科文化史学専攻、同大学院前期課程修了
- 肩書 関西外国語大学英語国際学部教授
- プロフィール 専門は考古学。大学での講義、考古学の研究活動のほか、考古学を市民に広めるための執筆、講演、市民活動をおこなう。

1997年より故郷の鳥取県でみつかったわが国最大級の弥生遺跡・妻木晩田（むきばんだ）遺跡の保存運動にとりくみ、1999年2月ボランティアの市民団体「むきばんだ応援団」の発足とともに、その副団長に就任。1999年4月、妻木晩田遺跡が全面保存された後も、妻木晩田遺跡の理解と支援を広げるために、むきばんだ応援団の活動として、米子市にて毎月1度、市民講座「むきばんだやよい塾」（1999年～現在）や植物観察会「むきばんだを歩く会」（2005年～現在）を企画・運営にあたる。

現在は、長崎県文化財審議委員、国特別史跡長崎県原の辻遺跡発掘調査指導委員、福岡県立歴史資料館協議会委員、読売テレビ番組審議委員、山陰遺跡ネットワーク会議代表、むきばんだ応援団副団長などを務める。

■おもな著書

- ・『吉野ケ里～繁栄した弥生都市』草思社 1991年
- ・『古代通信』（共著）学生社 1992年
- ・絵でみる考古学シリーズ全3巻
『森と海のめぐみ』、『海をわたった人々』、『戦争がはじまった』小学館 1998年
- ・『海と山の王国～妻木晩田遺跡が問いかけるもの』（編著）「海と山の王国」刊行1999年
（日本海新聞社主催の地方出版文化賞影井賞を受賞）
- ・『ようこそ考古学の世界へ』中央公論新社 2001年

「考古学は、今を映し、未来を照らす」

一部 佐古和枝さんのむかしむかしのお話

二部 ごんぼほりの井戸端談議 佐古和枝×イジョンミ×杉田徹

三部 ジョンミさんの歌。

ジョンミさんと佐古さんは、お友達。佐古さんの詩にジョンミさんが曲を付けた二曲。

四部 美味しい打上 くれぐれも、飲み物、持参のこと。